

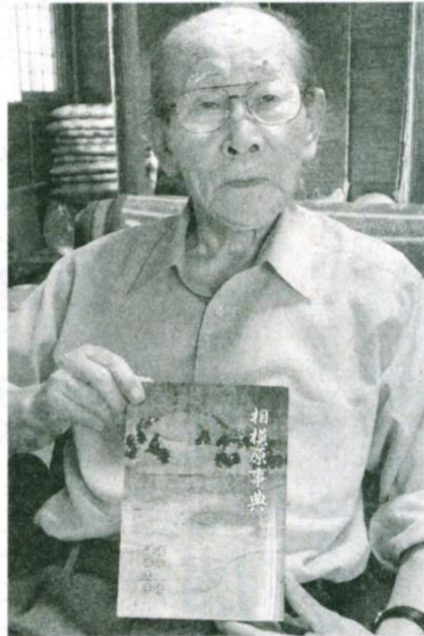
つ・む・ぐ

「リニア中央新幹線」や「相模湖」など、相模原市に関するあらゆる言葉を集めた「相模原事典」が今年3月に発売された。制作したのは同市在住の文学評論家、**浦田佑(89)**。約20年かけて歴史や自然、人物などについて約1300項目にまとめた。背景にあるのは太平洋戦争の経験だ。「地域の歴史を後世に残すのは生き残った者のすべきこと」と活動を続ける。

相模原に関する言葉 事典に

文学評論家

浦田 佑氏



に掲載されました。

わくた・ゆう 1928年神奈川県海老名市生まれ。県立高校の教員を定年退職後、80歳近くまで東京成徳大で講師を務めた。文筆活動では30歳のころに全国紙に小説を掲載したこともある。

を事典の形で表現することは海老名事典も予定する。は魅力がある。地域の歴史を残したい」との思いが強い。45年の終戦時、浦田は16歳。自身も約40年間住む相模原を題材にすることに決めた。同世代の死を目の当たりにし、後世に歴史を残す大切さを強く感じた。

伏の文学を読みあさり、世界観に引かれた。大学在学中に児童文学の執筆を開始。卒業後は神奈川県立高

歴史書などから相模原市に関する言葉を探し出し、背景などを調べる。「取材の基本は現場」との信念から、全項目のうち半分以上は実際に足を運んで事実を確かめた。住民や郷土史家に話を聞くだけではなく、ある人物の命日を確認するために墓地まで行ったり、海外に取材に出かけたりした。

歴史・自然・人物 後世に

政の神様と呼ばれた「尾崎行雄」や、市内を通る「小田急線」、市内に中学校や大学を構える「桜美林学園」などが並ぶ。

約2週間で完売した。現在は注文を受けて発行する仕組みで、**地元の出版会社の日相出版から1冊1800円**で販売する。

学校の教師として勤務する傍ら、文学者の評伝や自らの作品を文芸誌「すばる」や新聞で連載していた。

「相模原を知るにはゆかりの深い鎌倉市や海老名市の歴史を調べることも不可欠だ」と、11年には先行して鎌倉事典を出版。今秋に

当初150冊を制作したところ、歴史家を中心に反響を呼び、贈呈分も含めて

二の評論家として活動していた。物心ついた時から井

「一つの物事を思いつく。「一つの物事を思いつく。」

「相模原を知るにはゆかりの深い鎌倉市や海老名市の歴史を調べることも不可欠だ」と、11年には先行して鎌倉事典を出版。今秋に

敬称略
浦崎唯美子
おわり